

環境配慮行動普及促進事業費補助金及び二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）推進事業）

審査委員の意見を踏まえた総評

（令和7年5月26日～令和7年6月6日公募）

【全体】

・「くらしの10年ロードマップ」（令和6年2月 デコ活応援団（新国民運動・官民連携協議会））に則して、国民（消費者・働き手）にとっての行動制約要因（ボトルネック）を課題として認識し、そのボトルネックを構造的に解消するための仕掛け（取組・対策）について、具体的な検討がなされ、明確に表現されている等、本補助金の制度の趣旨に合致している申請を高く評価した。

・事業実施により、業界の内外に対し、広くボトルネックの構造的な解消に向けた効果を与え得ると考えられる申請を高く評価した。

・本補助金を活用した脱炭素に資する製品・サービス・行動等のプロモーションについては、当該製品・サービス・行動等の認知度の向上を通じて、上述のような、業界内外に対して広くボトルネック解消の効果を与えることを目的とする必要があるところ、この観点で、本補助金の用途が明確化された上で、事業実施者が自己資金を活用して実施する、自社の製品・サービスの販路促進との棲み分けが明確になされていることが必要である点に留意した。

・また、本補助金を事業の運営に当たって継続的に発生する経費に対して充てる場合は、翌年度以降補助金に代わる財源を補填する手段が明確になっている等、補助事業終了後も事業が継続、発展していくと見込めることが必要である点に留意した。

上記の各項目を踏まえ審査を行った結果、ボトルネックの構造的な解消に資する具体的な仕掛け（対策・取組）が認められる事業として、移及び基盤の分野において、事業の採択となった。

・本事業をきっかけに更なる消費者のライフスタイル変容や脱炭素に貢献する行動変容の拡張、発展に繋がる取組を期待する。

【移】

・「くらしの10年ロードマップ」にも記載の、環境負荷がより少ない移動手段の選択の意義やメリットを、適切なタイミングで小型電動モビリティの選択肢を提示し、車以外の移動手段を体験する機会の提供し、実感してもらうことで脱炭素に資する行動の促進につながる事業内容の申請を評価した。

【基盤】

・「くらしの10年ロードマップ」にも記載の、全ての生活領域で行動変容が促される経済

的・社会的なインセンティブを、高度な資源循環を可能にする基盤を有する地域特性を生かし、様々なイベントを通してサーキュラーエコノミーへの接点を持たせつつ国民・消費者に提供する事業内容の申請を評価した。

以上